

第2回 整備基本計画専門部会 会議録

開催日時：平成23年10月31日（月）14時～16時30分

開催場所：町田リサイクル文化センター研修室

出席委員：（敬称略）

細見正明、藤倉まなみ、杉山昌弘、高橋清人、伊東和憲、小林美知、片岡慎泰、
藤井修

傍聴者：3名

《次第》

（議事）

開会

1. 第1回専門部会議事要旨について
2. 処理方式について
3. メーカーアンケート項目と内容について
4. 事務連絡

閉会

《配布資料》

資料1：第1回専門部会議事要旨と作業計画（スケジュール）等

資料2：参考資料 施設整備基本計画策定から施設建設までのながれ

資料3：処理方式について

資料4：町田市資源循環型施設整備に係るアンケート調査

1. 第1回専門部会議事要旨について

○資料1「第1回専門部会議事要旨と作業計画（スケジュール）等」を事務局から説明

（藤井部会員）

p1の4番、エコプラザ多摩での5t/日は設備的には10tということか。理由は何か。

事務局（田後担当部長）

プラスチックの当初の基本計画の段階では、10tくらいの排出量だろうということで設置。

（藤井部会員）

2頁の回答①で、電気②⑥とも買うようなことは無いという説明だが、前回までの資料では発電量より使用量の方が多かった。

事務局（田後担当部長）

カンポリサイクルプラザは、焼却設備と併用されている。

（藤井部会員）

メタン化設備で作る電気量より、使う電気量の方が多いので、町田市は今後どうするのか。

事務局（田後担当部長）

協力率50%の場合、約50tのメタン発酵施設では発電量は確保出来るが、5t、10t規模の施設であれば、発電エネルギーが少なくなるので、必要なエネルギーが確保出来ない可能性もある。その場合には使用電力量の方が多くなるので買うことになる。

（細見部会長）

町田市の規模、ごみの発生量、アンケート調査結果を判断し、今の時点では概ね収支が取れる、規模によってはメタン化施設で使うエネルギー量の方が多いかもしれない。

事務局（田後担当部長）

カンポリサイクルセンターと中空知は自前で賄えている。

（細見部会長）

市の説明のとおり、アンケートにより町田市の場合はどうかというデータに基づいて、最終的に判断したい。

（事務局）

中空知は中継施設が同じ施設内に併設され、所内電力として73%賄われているが、併設されている電力を含んで計算されているので、単独のバイオだけでは出ていない。

(藤井部会員)

メタン化施設は資源回収にはならないが、メリットがあるなら理解する。

(細見部会長)

メタン化施設で電気量だけを見ると非常に際どいが、メーカーアンケート調査ではっきりさせたい。焼却量が減るとというのが基本計画で作ったことなので、メタン化施設だけの収支を取って見ると際どいかもしれない。電気量に関して説明が曖昧だった所を確認して修正する。

(高橋部会員)

メーカーアンケート調査は、メタン化単独施設の前の電力バランスを入れて欲しい。

(高橋部会員)

この会の決まったこと、これからの検討事項を部会長か副部会長の方で最後の 10 分くらい総括して頂きたい。

施設についてどの様な基準で選択すれば良いのか、委員会として枠組みを出しておきたい。

p2 の説明の他市実績は資料を頂きたい。

(細見部会長)

毎回前回確認した事をもう一度ここで確認しているが、1 回毎の最後に集約させて頂く。

評価基準はこの委員会で議論しなければならない事で、コスト、エネルギー、町田市全体のごみの取り組みの姿勢、どれを最重要視して決めて行くかを議論させて頂きたい。

他市実績はデータを示す。

(藤倉副部会長)

ホワイトボードに、議論していること、決まったことを書くとう理解が得られ易い。決まらない事でも幾つか意見が出たら全部書くということが大事だと思う。

(高橋部会員)

メーカーアンケートの調査項目の中に我々が求めている選定基準の項目を入れてなるべく早く作って頂きたい。

(細見部会長)

アンケートの調査項目の抜け、聞きたい項目を本日挙げ、出来るだけ早くアンケートを取って、次回の 12 月 8 日の委員会ではそれを基に議論して決定に近づけていきたい。アンケートの項目が抜けていないかも議論して頂きたい。

(小林部会員)

その施設だけで収支が合う合わないでやるのでは無い。生ごみを堆肥化となど個人の取組などの基本計画の資源化を前提に、効率だけでなく取り組むことをこの委員会でも確認して頂きたい。

(細見部会長)

町田市が進むべき方向を基に基本計画を作ったので、実施する際に多くの市民に受け入れて頂く必要がある。エネルギーの観点も1つの見方であるが、そればかりではないということはこの委員会のメンバーにも確認頂きたい。

○スケジュールを事務局から説明

(細見部会長)

高効率発電設備の1/2 交付金を受けるためには、検討会、部会が始まる前は2013年12月に計画書を提出すれば、交付金を受けられるということであったが、2012年12月に施設内容、候補地等を決めて提出しないと受けられないこととなった。

事務局(田後担当部長)

高効率発電設備の1/2 交付金の提出期限は2012年12月だが、発電設備と焼却炉はセット提出する必要がある。

(細見部会長)

地域計画というのはごみの焼却施設はもちろん、メタン化施設を建設する場合にはそれも含むのかどうか、それからその他のプラスチックだとかその他の資源化施設とかも今回全てを網羅していますので、来年の12月までにそれも含めて地域計画として提出すると。そうすれば高効率の恩恵が受けられる可能性が高い、そういう理解でよいのか。

事務局(田後担当部長)

そういった物を纏めて出すということで高効率の恩恵と言いますか、高効率については交付率は違うが、町田市なりの地域計画を出す訳ですから、トータルで出すことになる。

(細見部会長)

町田市の為に、予算的な面という意味ではやるべきかと思う。メタン化施設に関して、湿式ではなく乾式と呼ばれている排水処理が非常に少ない方式だが、実績が少ない。将来の禍根を残さない様にどうすれば良いか、これは我々に与えられた使命だと思う。これから議論をしていって、それでも出来なければ仕方ないかと思うが、一応やってみようという姿勢で臨みたいと思う。

事務局(田後担当部長)

アンケート結果を踏まえて処理方式について、アンケート結果を踏まえて部会の方向性を纏める時期を12月に設定した。

(高橋部会員)

メーカーアンケートと並行して、実績のあるメーカーに問題や良い所の話を聞いて、採用判断早めることができる。

(細見部会長)

本日アンケートの内容を確定し、12月8日には結果の資料を提示したい。

事務局(田後担当部長)

処理方式の方向性を2月・3月・4月に検討し、2012年5月頃に決定するスケジュールになっている。

2. 処理方式について

○資料3「処理方式について」をコンサルタントから説明

(細見部会長)

エネルギー回収推進施設の選定基準は、安定稼動が1番で、今までの実績から熱回収施設であるごみ焼却施設とガス化溶融施設が候補。

アンケートの実施に関してエネルギー回収施設で、例えばRDF、ごみ燃料化する様なプラントは恐らく論外であるということで議論を進めて行くということになる。ごみ焼却施設あるいはガス化溶融施設+メタン化施設はどうかと。メタンでも湿式で水の様な状態でメタン発酵させるのか、乾式で固形分を多くして排水処理が殆どいらぬような技術で行くのか焦点になってくるのかと思う。

3. メーカーアンケート項目と内容について

○資料4「町田市資源循環型施設整備に係るアンケート調査処理方式について」をコンサルタントから説明

(小林部会員)

粗大・不燃処理施設は、実際は破砕して焼却施設に回している所なので、焼却施設と同じ場所になる。離せるとしたら資源ごみ処理施設を分ける事になる。

(細見部会長)

熱回収施設と不燃・粗大処理施設、メタン化施設を含めて1つに纏め、更に集中度を高めるとするのは今までの町田市の議論では無かったと思う。少なくとも資源化の施設に関しては別の所というのが、今まで議論パターンとしては2つになる。離して1箇所と、離して2箇所、そのパターンでアンケートを取る事。

(藤井部会員)

メタン化のごみの含水率が80%の、根拠は。生ごみだけを取り出せるのか。

(コンサルタント)

メタン化施設の年間の全国自治体のサンプリングの平均値で、町田市に合わせたデータは提示しなければならない。

(藤井部会員)

機械選別は、生ごみを粉砕してごみメタン化に持って来るのを分ける設備のことか。機械選別する前に含水率 80%はあり得るのか。

事務局 (内山次長)

基本計画の段階で議論があったが、ごみを全国の平均で 8 割から 9 割が含水率と言われており、平均的な数値と言うことで 8 割。

(藤井部会員)

熱回収施設に持って行く計画ごみ質の部分の 50%とあるが、今の説明の燃やせるごみ全体が 80%とおかしいのでは。

(コンサルタント)

80%は生ごみの設定にしてある。機械選別をした場合も考慮し、燃えるごみとして集めた時の異物混入率 20%としている。各社、機械選別した時は、異物の混入率は 20%で計算する形にしてある。

(藤井部会員)

アンケート用紙には、各過程の物質収支、エネルギー収支やメタンの湿式か乾式の条件、反応率、滞留時間も出して欲しい。

(細見部会長)

物質収支は各過程ごとにアンケートを取り、機械選別、乾式・湿式メタンのそれぞれ収支とそのプロセスごとにいくら入っていくら出て、ガスはどれだけ出たかというのを書く。

(高橋部会員)

アンケート調査の 3 頁目の 4 番排ガスの自主規制値はゆるいのではないか。煤塵については 0.01 となっているが、これは前回資料によると、1 番良いのは 0.005。硫黄酸化物は 10ppm、塩化水素はかなりの設備が 10ppm の値になっている。なぜここだけ 50 になっているのか。これはとんでもない数字だと思う。ダイオキシン類も実際に稼動している設備で 0.01 というところが多くあり、1 番低いところでは 0.005 の設計値になっている。なぜこれが 0.1 なのか。環境先進都市といえるためには、実績ある項目は、規制値を下げた最高レベルにしておいて欲しい。

事務局 (田後担当部長)

実際の排ガスの値で報告値は、資料として出す。

(細見部会長)

自主規制は、ばいじんは 0.005、硫黄酸化物 (SOx) は 10、塩化水素は 10、窒素酸化物 (NOx) は 10、ダイオキシンは 0.01 とする。設定した自主規制値で、(窒素酸化物など) 下回ることが難

しい場合は、できる数値で、薬剤などの注入量等を聞く。排ガスの処理の時の薬剤の注入量がダイオキシン類濃度 0.01 とした時に活性炭吸着等を付けないと達成出来ないのかも聞く。

(伊東部会員)

活性炭が 100%無しでは無理かもしれない。

(細見部会長)

ここは微妙な言い方だとは思いますが、ただメーカーのヒアリング、最後もし必要であれば我々の手で確認をした時に、是非聞きたい。ごみ質の点を我々としては確実に理解した上で前に進みたい。もし、この含水率に行かない場合はどうするのかというようなことを質問して頂ければと思います。

(小林部会員)

資源化施設の所で分散化という話もしているが、プラスチックの圧縮・減容ラインとか、そういう所でも測るなど、きちんと管理して行く様な規制を入れることが必要だと思う。出る物質もあったため、それをどのようにしたら取れるかをこの中に入れておいて頂きたい。

(細見部会長)

資源化の施設の所で、特にプラスチックの圧縮減容化ラインについては既に基本計画の時に実験をしており、ガスが出た時に対応できる技術を有しているかということを確認に出してもらいたい。基本化計画の中に実験したデータがあるので、それを参考にして、どのように脱処理なり対策を考えますかと、その根拠はどうですかという流れが必要。特にプラスチックの圧縮・減容化ラインについては、町田市は過去に幾つかの問題点と言うか、施設整備に当たって抱えてきた問題なので、それに対して答えられる様なアンケートになっていることが必要。

(高橋部会員)

排水に関して、全部クローズドにすると言うならそれはそれでよいが、書いていない様な気がするがどうか。

(コンサルタント)

排水については、下水道の排出基準まで落として下水道放流ということで記述している。

(細見部会長)

アンケートの聞き方としては下水道がありますと聞けば、当然下水道の排出基準までにして流すと。決して河川に流すまで浄化するということはないので。

(藤井部会員)

フローを書いて貰う事になっているが、どの程度の物を書いてもらうのか。例えば湿式のガス化設備があった場合、どれ位の大きさの発酵槽が幾つあってということまで書いてもらうのか。単なるフローか。

(コンサルタント)

システムの概要図説明のフロー図と物質収支、両方が出て来るので、当然物質収支の中で機械の容量までというものは通常出てこない。

(細見部会長)

例えばごみのメタン化施設とした場合、20 tの大きさを2つ、その大きさは、サイズは、直径何m、長さ何mと書いてもらうこと。

(藤倉副部会長)

建物の高さを聞く項目が全然出ていないので、回答書で言うと様式4になるが、実際には面積と高さが場所の選定には大変重要になってくるので、最大高さも聞くようにしてください。もう1つは、回答書の様式4では、プラスチックの圧縮・減容化施設を単独で整備した場合だけを別引きにしてあるが、資源ごみの施設を離して1箇所、離して2箇所は、プラスチックだけではなく、アンケート別紙1の缶、ビン、ペット、トレイ、有害ごみ、全部合わせた資源化施設を別という理解でよいか。

(細見部会長)

1箇所に集中しないのが前提。アンケートは、これとこれは必ず1箇所にすると明確にすること。

4. 事務連絡

(細見部会長)

次回12月8日、1月19日16時半。見学会は11月18日、25日。

5. 閉会
